

## 「日本経済論」中間試験の採点結果(50点満点で採点)

## 1. 単位取得の条件と受講の心構え

シラバスにもあるとおり、通期でみて3分の2以上の授業に出席していない人は、単位認定の対象外です。また、試験に不真面目な回答をした人(試験会場で例示します)や、中間試験と期末試験の両方を受けていない人(一方だけでは駄目です)についても、同様に単位認定の対象外です。

欠席届に相当するようなやむを得ない事情で中間試験を受けられなかった人(ただし、通期で2/3以上出席できる人に限ります)については、申し出があれば追試の実施も検討します。

受講生の皆さんにとっては、目先の単位取得が大事かもしれませんが、しかしながら、皆さんの就職活動や、社会人としての生活を展望すると、日本経済論を学生のうちに正しく理解することが大切です。私の授業では、実務経験を活かして、類書に出ていない非常に重要な内容(特に後半の金融関係)についても話していきます。

単位認定の対象外になった人でも、私語などで他人に迷惑をかけない限り、私の授業に出ることを拒否しません。日本経済論について確かな知識を身につけるよう、努力しましょう。

**警告! : 特に卒業がかかっている人は、この機に後半の勉強方針を真剣に考えて下さい。もちろん、勉強せずに不合格になるのも皆さんの自由です。**

私の授業では出席点を一切つけません(足切りの基準とするだけです)ので、授業内容をしっかり理解するように努力しましょう。今回の成績が良くなかった人は、後半部分の授業でどのように対応すればよいかよく考え、しっかりとした行動に移す必要があります。

## 2. 商経学部(経済学科3~4年次)などの受験者54名

うち45点以上	6名	このまま勉強すれば優の可能性大(よく頑張りました)
40点~44点	9名	このまま勉強すれば優の可能性
35点~39点	15名	このまま勉強すれば良の可能性
30点~34点	10名	このまま勉強すれば可の可能性 <u>気を抜かずに</u>
25点~29点	5名	<b>後期に頑張ればなんとか可となるかも</b>
20点~24点	6名	<b>後期にかなり勉強しないと不合格</b>
19点以下	3名	<b>後期に大いに勉強しないと不合格</b>

**平均点 34.2点 最高 47点 最低 17点**

(採点関連の注意点)

日本の財・サービスの輸出はGDPの1割を大きく超えますが、経常収支の黒字は数%しかありません。輸入などを引く必要があるからです。この機会に、正確に理解して下さい。国債利払いは、「過去5年間増加し続けて」いるわけではありません。確かに国債残高は

急増していますが、低い金利の国債に置き換わる効果が大いのです（実際、平成 11 年度から 15 年度まで一般政府の利払い費は減少しています）。もっとも、これ以上金利が下がることは考えにくいので、遠からず年々増える局面に変わると考えられます。

（全体の印象）

出席管理を厳格化したこと等から受験者の意識が高まったのでしょうか、昨年よりも平均点が 4 点余り上昇しています。ある程度の点数を取れた人は、後半も気を抜かずに勉強してください。

ただし、記述式の問題については、あまり点数が伸びていません（20 点満点で平均 7.4 点）。**試験を受けるからには、意味のある解答を書くだけの経済学・日本経済の基礎知識を身につけておいて下さい。**そもそも、こうした知識のない人は単位の対象になりません。

**警告！**：前期のままで単位を取れそうな人は **74% に過ぎません**。残り 26% の人は、後期に心を入れ替えて大いに勉強しないと、単位を取れません。

以上